

平成20年8月14日発行

コンサ旭川連勝で3勝目をあげる！ 平成20年度第2回北海道カブスリーグU-15

平成20年度第2回北海道カブスリーグU-15は7月26日に芦別なまこ山総合運動公園で第8節が行われました。第1試合で啓北中はユニオンジュニアユースと対戦。前半の3点のピハインドを取り返せず3対0で敗れました。第2試合ではコンサドーレ旭川がアンフィニMAKI.FCと対戦。38分の中澤の決勝ゴールで1対0の勝利を飾り、勝ち点を10と伸ばし混戦の中位が見えてきました。

第8節 7月26日(土) 芦別なまこ山総合運動公園

旭川啓北中0-3(0-3)ユニオンジュニアユース

啓北 GK永井 DF斉藤寿, 茂木, 高橋竣, 干場 MF藤村, 保田, 酒井, 西根(高橋拓) FW藤原(新井), 笠原

カブスリーグ第8節はクラブ選手権でもベスト4に入るなど好調のユニオン戦。啓北は主将の山内を出場停止で欠き、苦しい展開が予想された。立ち上がりからミスが試合の流れを左右した。コミュニケーション不足からやらなくていいCKをユニオンに与えてしまう。そのCKにマークがつききれず、混戦になる。さらに相手へのプレッシャーが遅れ(2)にブッシュされ3分で早くも1点を失った。その後はやや盛り返し、中盤の底で保田がよくボールを拾い、酒井がボールにからんで徐々に攻撃の形が見えてくる。10分にはDF高橋竣のパスからMF藤村、12分にはDF干場のパスからFW笠原とシュートには至れないもののチャンスを迎える。13分酒井の直接FKはゴール右にわずかに外れる。しかし、この時間帯に得点できなかった啓北は16分またしてもミスから追加点を許す。ユニオンが20mのミドルシュート、パーに当たって跳ね返ったボールをクリアミスしたところをつめられてしまう。早々と2点を失った啓北だが、攻撃の形がシュートに結びつき始める。16分にはスローインを受けた酒井が右サイドからクロスボールを入れるがわずかに中に合わず。21分には笠原が前線で基点となり、そのスループスをを受けた酒井がペナルティエリア内で突破しシュートを放つがわずかに左にそれる。また、藤村からのクロスボールも何度か入るなど、一進一退の攻防となる。30分ユニオンは(14)が前方でボールをキープ。戻したところを(11)が25mの強烈なミドルシュート。これがゴール右上に決まり3点目を許す。前半1点を返したい啓北は31分酒井が左からグラウンダーのセンタリング、笠原が合わせるが相手GKが判断よく飛び出しキャッチする。34分には保田が左足でFW藤原の前方のスパスヘミドルパス。フリーの藤原はシュートを放つがゴール上にはずれず。ロスタイム



には酒井の35mのロングシュートもゴールポストに当たり、得点にはならず。後半も一進一退の攻防。そんな中15分藤村のセンタリングに笠原が合わせるがシュートは相手GKにキャッチされる。相手のオフの間のクレバーな動きに対しては高橋竣がDF陣を統率してラインコントロールで対抗。またCB茂木が体を張って防ぐ。また、前半にもまして保田が運動量豊富に走り回り、好守の軸となる。

相手左サイドからは笠原が再三突破を図るなど、チャンスは迎えるものの1点がどうしても奪えない啓北。ロスタイムには笠原の突破から、新井がゴール前でシュートを放つがゴール左へと外れタイムアップ。立ち上がりの失点が響いた形で3対0でユニオンに敗れた。

コンサドーレ旭川1-0(0-0)アンフィニMAKI

得点者 中澤(38分)(コ)

コンサ GK今岡 DF河原, 成田, 伊藤, 田中 MF玉田, 高木(澤田分), 阿羅, 中澤, 山下 FW武井(岸本)

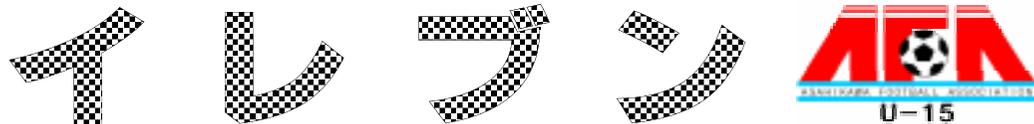
立ち上がりからコンサ旭川ペースで試合が展開する。4分、右MF山下がドリブル突破しそのままシュートを放つがGKのほぼ正面をつく。6分にはMF中澤がミドルを放つがボールは枠の外に外れる。アンフィニも12分左サイドからDFラインを突破しシュートを放つが、GK今岡がしっかりとブロックする。しばらく膠着状態が続いた32分アンフィニは再び左サイドからチャンスを作りミドルシュートを打つも、今岡がこれも難なく防ぐ。そして、38分、FKのチャンスに山下が壁から動き出した中澤にグラウンダーのパス。シュートを予測していたアンフィニはこれに反応できず、中澤はワントラップ後ペナルティエリア付近中央から強烈なミドルを決め前半を有利に折り返す。

後半は暑さもあって、我慢比べの展開となる。阿羅や武井が果敢にゴール前に迫るが、アンフィニDF陣も簡単にフリーシュートは許さない。DF伊藤の意表をつくロングシュートもあったが、得点には結びつかない。70分と79分にピンチを迎えるが、今岡がよくシュートに反応してゴールを守りきる。結局後半も押し気味のコンサ旭川が主導権を握り、前半の虎の子の1点を守りきって初のリーグ2連勝をかざった。



第2回カブスリーグ(第8節まで)

A	札幌	SSS	DOHTO	札幌Jr	アンフ	スプレ	ユニオ	旭川	啓北中	あいの里	勝点	得点	失点	得失差	順位
コンサ札幌		5-2	8-0		4-3	5-1	6-0	5-0	13-0	19-0	24	65	6	59	1
SSSJY	2-5		3-0	1-1	0-3	3-1		1-0	5-1	6-0	16	21	11	10	2
DOHTO	0-8	0-3		2-1		5-3	2-1	0-0	1-0	7-1	16	17	17	0	3
札幌JrFC		1-1	1-2		4-1	0-2	1-2	1-0	6-1	10-0	13	24	9	15	4
アンフィニ	3-4	3-0		1-4		3-1	0-2	0-1	2-1	13-0	12	25	13	12	5
スプレッド	1-5	1-3	3-5	2-0	1-3		5-0	2-1	4-1		12	19	18	1	6
ユニオン	0-6		1-2	2-1	2-0	0-5		0-1	3-0	5-1	12	13	16	-3	7
コンサ旭川	0-5	0-1	0-0	0-1	1-0	1-2	1-0			6-0	10	9	9	0	8
啓北中	0-13	1-5	0-1	1-6	1-2	1-4	0-3			5-0	3	9	34	-25	9
あいの里東	0-19	0-6	1-7	0-10	0-13		1-5	0-6	0-5		0	2	71	-69	10



平成20年8月14日発行

旭川啓北中準々決勝で涙をのむ

第47回北海道中学校サッカー大会

第47回北海道中学校サッカー大会は8月2日から4日まで岩見沢市、栗山町を会場に行われました。上川支庁代表の旭川啓北中は、3日に栗山ふじスポーツセンターで地元岩見沢北村中とまず2回戦を戦いました。相手GKのロングキックに苦しめられましたが、オウンゴールと笠原の得点で2対1で振り切りました。続く午後から行われた準々決勝では、昨秋の新人戦でも対戦している十勝代表清水中・御影中合同チームと対戦。雨中での試合は激しい点の取り合いとなりましたが、3対2で敗れベスト4を前にして涙をのみました。また留萌支庁代表の留萌中は2日の1回戦で優勝した渡島の浜分中と対戦。健闘しましたが、フィジカルの差はいかんともしがたく、初戦で敗れました。

2回戦 8月3日(日) 栗山町ふじスポーツ広場A
旭川啓北中(上川) 2-1 (2-1) 岩見沢北村中(開催地)
得点者 オウンゴール(3分), 笠原(10分)(啓)(7)(北)
啓 北GK永井 DF酒井, 高橋峻, 茂木, 干場 MF藤村, 山内, 保田, 西根
FW笠原, 藤原

全道大会初戦岩見沢北村中戦は、ラッキーな形でスタートする。3分、左からの茂木のFKから混戦となり、DF酒井がからんで藤原がゴール前に突進。相手DFのクリアミスで誘いオウンゴールで先制点をあげる。序盤はその後も啓北ペース。酒井の個人技での右サイドを突破やMF山内のサイドチャンスなどから、左サイドの西根にフリーでボールが渡りチャンスを作る。しかし8分、一瞬の隙をつかれ同点に追いつかれる。自陣右サイドのスペースにボールを入れられるとDFとGKが連携ミス。中途半端な位置に飛び出したGKの頭越しにループシュートを決められる。だが啓北は10分、西根のパスを受けた山内が左サイドでボールをキープ。相手DF二人をかわしてセンタリングをあげると、FW笠原が頭でピタリと合わせ勝ち越し点をあげる。この得点で勢いにのる啓北はボールをポゼッション。山内、保田から両サイドの酒井、干場にボールを散らせてビルドアップする。対する北村は、大型GKのロングキックから(14), (7)のツートップへのダイレクトプレーで展開を図る。スピードのあるツートップに苦戦はするものの、茂木、高橋峻のCBコンビが何とか対処する。18分啓北は山内から西根にパスが出、グラウンダーのセンタリング。藤原が合わせるがボールはゴールバーにはじかれる。20分には山内が西根にサイドチェンジ。西根が中央に折り返したボールを笠原がシュートを放つが右に外れる。26分には酒井のFKを藤原がヘッドで狙うがボールはゴール左へ。度々決定的な場面を迎えたが、決めきれず前半は2対1で終了する。



後半も開始直後は啓北のペースで試合は進む。6分には藤原、山内とつないで酒井が右サイドを突破し、ゴールエリア付近からシュートを放つがわずかに左へそれる。しかし、決定機を決めきれなかった啓北は次第に相手GKの威力あるキックにDFラインが消耗させられ、苦戦を強いられる。残り5分となったところでは、相手の左サイドから猛攻をかけられ、ピンチの連続となる。55分には相手の左サイドからセンタリングをFWがフリーでボレーシュート。GK永井が素晴らしい反応でストップする。58分にはまたしても左からハイクロスを入れられるが、高橋峻が体を寄せ、ヘディングシュートの勢いをとめる。ロスタイムにはペナルティエリアわずかに外でFKを与えてしまう。しかし、これを何とかしのぎきり、辛くも2対1の勝利。準々決勝に進出した。

準々決勝 8月3日(日) 栗山町ふじスポーツ広場A
旭川啓北中(上川) 2-3 (1-2) 清水中・清水御影中合同(十勝)

得点者 酒井(16分), 笠原(40分)(啓)(10)(10分, 29分), (6)(45分)
警告 山内, 茂木(啓)(4), (1)(清)
啓 北GK永井 DF酒井, 高橋峻, 茂木, 干場 MF藤村, 山内, 保田, 西根
FW笠原, 藤原 交代/F P斉藤

試合開始前から雨が降り出した準々決勝清水御影戦。キックオフ直後には雨足も強まり、強い風とスリッピーなグラウンドと悪条件の中での試合となった。開始直後より啓北は相手の浅いディフェンスラインの背後をつき、チャンスをつかみ出す。5分にはGK永井のロングキックをFW藤原が流し、笠原がGKと1対1になるがシュートはキャッチされる。しかし10分ハーフウェー付近左サイドで奪われたボールを縦に入れられ、そのボールを奪いきれずに中に折り返される。相手エースの(10)がワンタッチでターンし、左足で蹴りこみ先制点をあげる。しかし、啓北も11分には相手の左サイドで奪ったボールを笠原が右足インフロントで狙うなどチャンスはつかむ。そして16分、右サイド深くドリブルで突破した酒井がそのままペナルティエリアまで侵入し同点ゴールをあげる。だが、相手エースの(10)にはDFラインはかなり苦しめられる。昨秋の新人戦でも手痛いゴールを奪われていることもあり、スピードを怖れてラインをあげきれない。そのため中盤でボールをなかなか拾いきれない。また、MF山内からFWやサイドハーフにスルーパスが出るものの、相手CBがスピードのあるカバーリングを見せシュートまでもちこめない。23分には相手DFのウラに飛び出した藤原がゴールに迫るが相手GKのファウルに止められる。しかし、酒井のFKがゴール右へと外れてしまう。ロスタイム清水御影は(12)のパスを受けた(10)がスピードにのったまま胸でワントラップ後、25mの距離を豪快なボレーシュート。これがゴール左隅に突き刺さり、嫌な時間帯での失点をくらう。

後半は何とか挽回しようと、啓北も必死の攻撃を見せる。啓北は酒井、藤村の右サイドから、清水御影も(10)の左サイドからと、同サイドでのしぎを削る。32分啓北は右サイドを藤村が突破してCKを得る。酒井の蹴ったボールはGKの頭上を越え逆サイドで待つ笠原へ。笠原はインサイドで合わせて同点とする。だが、2試合目と言うこともあり、次第に足が止まりだす。また、主将山内がDFラインのウラにでたボールを追いかけたところ、スリッピーなグラウンドに止まりきれず相手GKと激突し、足を負傷する。そのため運動量が低下し、中盤でボールを奪えなくなる。そんな中45分清水御影は中央からのミドルシュートを(17)がヘッド、左ポストに当たったところを(6)がつめ三度リードを許す。終盤高橋峻が前線に進出し、同点のチャンスを探るが及ばず。後手後手にまわった啓北は、力尽きベスト4を前にして涙を飲んだ。

